

現代教育学部広報誌

EDUCATUS

Vol.3



中部大学



幼児教育学科教授 花井 忠征 HANAI Tadayuki
現代教育学部 第2代学部長(2013.4~2018.3)

現代教育学部の歩みと これから

中部大学 教育・学生担当 副学長
花井 忠征 博士(医学)

1. 現代教育学部の開設と 成長・発展

2008年4月1日に設置された現代教育学部は、幼児教育学科と児童教育学科の2学科体制で開設され、今年度で14年目を迎えた。開設当初の取得免許・資格等は、幼児教育学科は幼稚園教諭免許状、保育士資格、レクリエーションインストラクターであった。児童教育学科は、小学校教諭免許状と特別支援学校教諭免許状、および図書館司書教諭資格、社会教育主事任用資格、レクリエーションインストラクターであった。

本学部は、次世代を担う乳幼児や児童の人格形成の基盤を体系的に支援することができる優れた保育者・教育者を育成することを理念として教育を推進してきた。この理念に基づき幼児教育学科は、学生の専門性と力量形成、および人間力の育成に努め、多くの幼稚園教諭と保育士を輩出してきた。

児童教育学科は、初等教育への貢献として新たな教育理念と実践的指導力を有する教育者の育成を行ってきた。2012年度には社会のニーズに応え、中学校教諭免許状(理科)の取得を可能にした。児童教育学科が中学校教育をも視点においた教育を展開してきたことに対して、学科名が相応しくないことが指摘された。また、社会情勢が変化し、児童生徒の減少による小中学校の統廃合が進行したことや、2016年度から小中一貫教育を実施する「義務教育学校」の制度化が行われるなど、児童生徒を一貫して教育することのできる複数校種の免許状を有した教員の養成が急務となった。これらの背景に応えるために、学科名を「現代教育学部」と改称し、中学校教諭免許状(国語)と(数学)の取得も可能にした。この改組により、それまで以上に小中一貫教育や義務教育全般に対応でき、次世代教育を先導する教育者の育成に取り組むことができるようになった。

2. 歴代学部長の学部運営方針

初代 豊田ひさき学部長(2008.4~2013.3)は、スーパーティーチャーの育成をスローガンにして、任期中をロケットの第1弾として学部を軌道に乗せることを常に念頭に置かれて尽力されるとともに、理科に強い現代教育学部を実現するために、中学校教諭(理科)の教職課程を整備された。

第2代 学部長(2013.4~2018.3)は、私が務めさせていただいた。私は、軌道に乗った学部をより強化するために、保育者・教員養成を主軸に置いた学部運営を行い、取得免許種の拡大を目指して中学校教諭(国語)と(数学)の教職課程を整備した。

第3代 辻本雅史学部長(2018.4~2019.3)は、副学長を兼務しておられ、文系改組担当であったことから、現代教育学部の改組にも取り組まれた。生涯教育を担う人材育成、ESD教育などを構想されておられた。

第4代 佐野 充学部長(2019.4~2021.3)は、学部教員の研究力の向上を推進され、学内やステークホルダーへアピールすることに尽力された。

今年度(2021.4)から第5代学部長に就任された三島浩路教授は、学部開設時からの教員であり、本学部の歴史を熟知されている。学園は新たな方針で文系改組を継続しており、本学部にも改組を求めている。現在の学部体制は、開設時に幼児教育学科と当時の児童教育学科の独立した設置が尾を引き、複雑な教員免許状取得構造と多数教員の配置が余儀なくされている。新学部長には、分かりやすい学部構造の再編が課題となると考えられる。その動きの中で死守して欲しいことは、現状の免許種を減らすことなく改組を手掛けて頂きたいことである。また、中学校英語免許など、免許市場を拡大して志願者増を目指してほしい。あわせて幼児教育学科の志願者増のために小学校教諭免許が取得できる仕組みをぜひ構想していただきたい。三島新学部長の学部改革・学部運営に大いに期待したい。

3. これからの現代教育学部に求められること デジタル社会に対応する 保育者・教員養成

文部科学省は、Society 5.0時代に生きる子どもたちにとってPC端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムであるとして、1人1台のタブレット端末や高速大容量通信ネットワーク環境の整備など、全国一律のICT教育環境の実現に向けて加速的な取り組みを行ってきた。それを背景としてGIGAスクール構想のもとで、「子どもたち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育むICT教育」を推進している。この文部科学省の動きをさらに後押しするように、2021年9月1日にデジタル庁が創設され、デジタル社会の推進や国民生活のデジタル化などを主導する政策が

スタートした。教育界にも大きく影響を及ぼすことになる。

このような国や社会の足早な動きに対して、現代教育学科は、将来を見据えた新たな教育を「今」構築し、推進していかななくてはならないと考える。1人1台の端末を活用した教育を始めている現小学校6年生は6年後には大学に進学してくる。中学、高校でもICTを活用した多様な教育を受けてくる中では、大学教育は現状を脱皮し、さらに質の高い、将来のAI時代をも見据えた教育を用意して、新たな教育を発進していかななくてはならない。また、在学生には、進化していく小中学校に赴任した時に十分に対応できる教育力を修得させなくてはならないことは言うまでもない。

一方、幼児教育学科においてもデジタル化の波は避けては通ることはできない。すでにデジタル機器が導入された保育、子育て支援社会が始まっている。登降園時のICカードやタッチパネル打刻の導入、アプリ上で欠席管理、午睡中の事故防止体動センサーの導入、個別アレルギー対応自動献立、スマート体温計による検温など日進月歩である。保育職は、多忙な業務であり、乳幼児の命を守るために一瞬たりとも気を抜くことができず、ミスは許されない。しかし、保育上の不幸な事故は毎年のように発生している。人手だけでなく、デジタル機器がサポートしてくれることは保育者の安心感につながり、多忙な業務の軽減にもつながるものである。しかし、一方で操作上の人的ミスや誤報など、必ずしも万能ではなく、信頼しきれものではない。したがって、これからの保育者は、今以上に高い専門性の修得と実質的な高い力量形成が不可欠となる。さらに加えてIoT/IT技術導入にも高い理解力と効果的な活用ができる知識とセンスを身につけていることが求められることになるであろう。機械に依存することはないが、機械と共存できる人材育成が急務となってきている。

幼児にデジタル端末を与えてはいけない、デジタル端末で子育て、子守をさせてはいけないと、感覚論を言うだけでは、これからの子育て世代の問題解消にはつながらない。保育者養成校としてカリキュラムや講義内容の見直しを早急に図り、常に新しい動きを吸収して対応できる、課題解決型保育者養成に力を入れなくてはならないと考える。時代の流れ、波に乗り遅れることなく、保育者養成を行うことが課題となる。

しかし、我々が忘れてはならないことは、「人間は人間社会の中でしか人間に育たない」ということである。人とのつながり、コミュニケーション、協同・協調など、人格形成、人間形成に密に関係し次世代を担う「人の心」をもった豊かな子どもたちを育てることのできる保育者・教員養成を目指していきたいものである。



Title: 柔光

サイズ:F30号

画 材:キャンバス・アクリル絵具

現代教育学科教授 長尾 寛子



現代教育学部 学部長 三島 浩路 MISHIMA Koji

スマートフォン依存に関する研究

現代教育学科教授 三島 浩路 博士(心理学)

多方面からのアプローチ

スマートフォンの普及に伴い、過剰な利用が教育現場などで問題視されるようになってきました。スマートフォンの過剰な利用が進行して依存状態になった場合、健康や生活面に大きな影響をおよぼします。また、依存状態から脱却することは容易ではありません。

スマートフォン依存に関する問題は、アルコール依存など物質依存に関連した領域の医療関係者、スマートフォンやインターネットゲームに依存する者の脳内の血流や組織の萎縮等をMRIなどを利用して研究する脳研究者、ドーパミンなど神経伝達物質との関係からスマートフォン依存の治療方法を研究する薬学研究者など、21世紀に入ってから多くの研究者により多面的な研究がなされるようになりました。

スマートフォン依存に陥りやすい人

ある高校生がスマートフォンを手に入れ、頻繁に利用した結果、生活リズムが破綻する程の依存状態に陥ってしまい高校を退学せざるを得なくなったとします。一方、この高校生とほぼ同時期にスマートフォンを手に入れ、この高校生と同じようにスマートフォンを利用した別の高校生は、スマートフォンを長時間利用しているものの、安定した生活リズムを維持し、学業や対人関係も比較的良好に推移していました。二人の高校生には、どのような違いがあったのでしょうか。そして、スマートフォン依存に陥りやすい人にはどのような特徴があるのでしょうか。

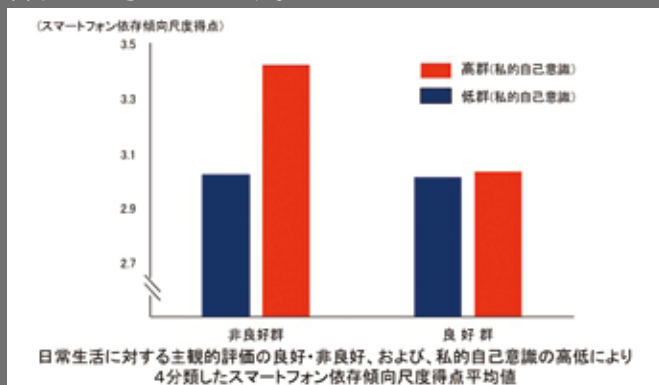
この問題を考える際、アルコール依存症に関連した研究が参考になります。ハル氏のグループが50年以上も前に行った研究によれば、自分自身に対する関心の強さを示す私的自己意識の高さと、失業や離婚、交通事

故など生活の中で経験するネガティブなライフイベントの2つの要因がアルコール依存に関連することを示唆しています。

ネガティブなライフイベントに直面すると、そうした現実から目を背けたくなり、現実からの逃避を試みる人は多いことでしょう。スマートフォン依存との関連性が強いインターネット依存やゲーム依存に関しても、現実から逃避したいという逃避傾向の強さと依存との間に関連があるという研究報告が多数有ります。

これらの研究を参考にして、スマートフォン依存の問題が顕在化しやすい高校生を対象に調査を行い、現実逃避を促すネガティブなライフイベント体験や私的自己意識の高さが、スマートフォン依存に関連するのどうかを確かめようと考えました。しかし、ネガティブな体験や出来事を、高校生を対象に質問紙で直接調査した結果、深刻な体験を生徒に想起させてしまい、心理的ダメージを与えてしまう危険性があります。そこで、こうしたネガティブな体験や出来事を直接尋ねるのではなく、友人関係や家族関係を中心とした対人関係、学習活動や課外活動などが良好かどうかを高校生が各自の主観により評価する「日常生活に対する主観的評価」を用いた調査で代替することにしました。学習活動や友人関係、家庭内の人間関係、部活動などの授業外活動が良好だと感じている高校生に比べて、良好ではないと感じている高校生は、現実から逃避したいという思いが相対的に強く、スマートフォンに対する依存傾向が強まる可能性が高いと考えたのです。

高校生約800人を対象にした調査の結果、「日常生活に対する主観的評価」が良好ではない生徒の中で、私的自己意識が高い生徒だけがスマートフォンに対してより強い依存傾向を示したのです。その後に行った約3,000人の高校生を対象にした大規模な調査の結果からは、不安傾向の強さなど性格要因もスマートフォン依存に関連することが示されました。学習活動や友人関係など学校適応に関する要因、公的自己意識や不安傾向など個人の特性に関する要因がスマートフォン依存に影響すると考えられます。



スマートフォン依存が生じるプロセス

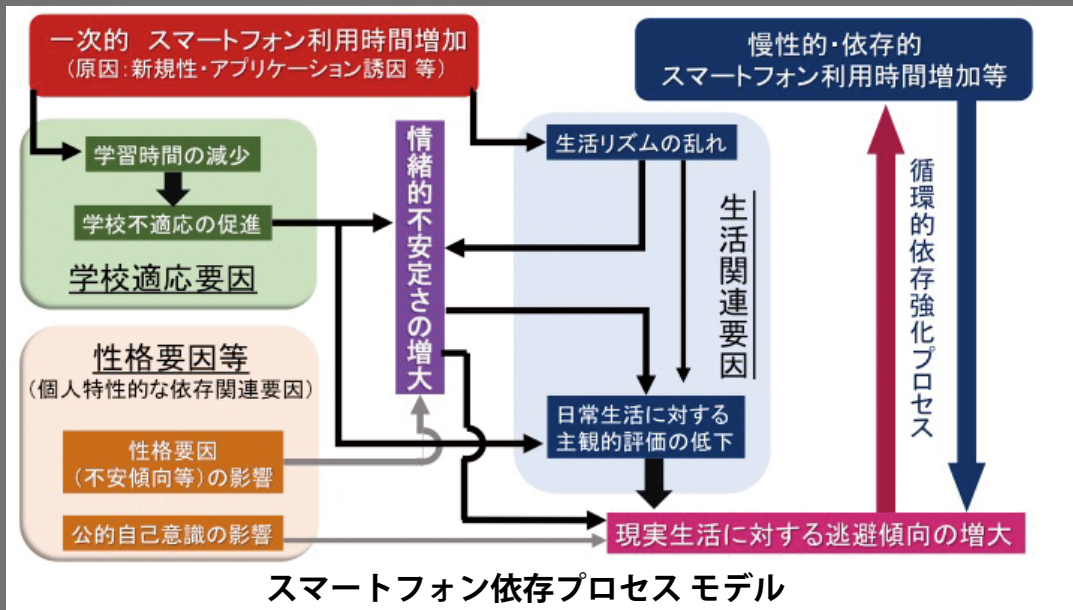
スマートフォン依存に限らず、様々な対象に対する依存が特に問題視される場面、それは現実生活に支障をきたす場面です。スマートフォンの利用時間が極めて長時間でも、客観的にみて現実生活にまったく支障をきたしていなければ、スマートフォンに依存しているとはいえません。スマートフォン依存の特徴として、スマートフォンを手放せない、自分自身の力で利用時間を制御できない、スマートフォンを長時間使い続けることによる問題は分かっているが、スマートフォンを使い続けてしまうなどが挙げられます。こうした特徴は日常生活に関連したものであり、スマートフォン依存の問題を考える場合、生活関連要因を加える必要もあります。

さらに、スマートフォン依存に陥ってしまった後、そうした依存状態から抜け出せなくなるメカニズムが存在するはずですが、先行研究などを参考にして、スマートフォン依存が進行し、抜け出せなくなってしまうプロセスを含めてモデル化しました。

このモデルでは、スマートフォン依存に至る過程で、学校適応要因や性格などの個人特性要因、生活環境要因に着目しました。例えば、中学校入学を機にしてスマートフォンを手にした生徒が、連日、SNSで友だちとやり取りしたり、様々なアプリを使ってみたりして夜遅くまでスマートフォン操作を続けた結果、睡眠不足や学習時間不足といった問題が生じ、登校意欲や学力の低下を招いてしまったとします。学校生活に対する適応状況のこうした悪化だけでなく、当人の不安傾向も影響して情緒が不安定となり、現実生活から逃避したいという思いが強まり、現実生活から逃避するためにスマートフォンにますますのめり込んでしまう。依存状態に陥るとスマートフォンの長時間利用がより慢性化し、現実生活における問題が拡大することなどから、現実生活に対する逃避傾向はさらに強まり、逃避傾向のこうした増大がスマートフォン利用時間のさらなる増加につながるという悪循環に陥ってしまいます。

スマートフォン依存の“多様性”

スマートフォンには多様な機能が備わっています。そのため、スマートフォンに依存するといっても依存しているアプリケーションの特性によって依存者の特徴が異なる可能性があります。つまり、中学生や高校生がスマートフォンで利用するアプリケーションの特性により、依存しやすい生徒の特徴が異なる可能性があるのです。たとえば、ゲームに依存しやすい生徒とSNSに依存しやすい生徒には、違いがあるのではないのでしょうか。



スマートフォン依存にならないためには、生活リズムの安定が大きな役割を果たすと考えられます。決まった時刻に起き、自分が決めた時間帯に自宅学習を行い、決まった時刻に就寝するといった状態は、生活リズムが安定した状態です。この生活リズムが不安定になりやすい時期があります。それは、新しい生活環境を獲得する中学

わたしは、現実生活の中で生徒が感じる“欠乏感”によって、依存するアプリケーションが異なるのではないかと考えました。学力不振という面で満たされない生徒は、ゲーム系のアプリケーションに達成感を求め、友人がいないことにより親和欲求が満たされない生徒は、親和的な関係をSNSの中に求めるのではないのでしょうか。こうした点についても、今後の調査研究で明らかにしていきたいと考えています。

現実的な問題を考える (スマートフォンの購入時期)

スマートフォンを手にした中学生を例に依存プロセスについて説明しました。プロセス全体については、これから詳細な調査研究を進めますが、このプロセスを検討する中で、ある問題に気がつきました。それは、スマートフォンを中学生や高校生がはじめて手にする時期に関係した問題です。

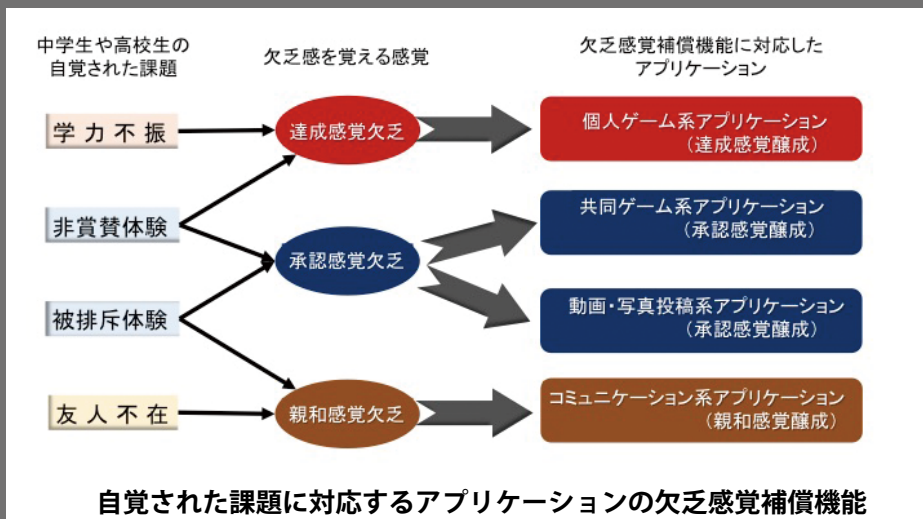
校や高校の入学時期です。

小学校を卒業して中学校に入学した時期に、スマートフォンを生徒が手にした場合、どのようなことが起きるでしょう。憧れのスマートフォンを手にしたわけですから、いろいろ使ってみようという思いは強く、スマートフォンの操作に多くの時間を費やすこととなります。一方でこの時期は、中学校での新生活が始まる時期であり、新しい生活リズムをつくる重要な時期です。中学校では小学校以上に学習内容が多く、数学などでは難易度も上がるために、小学生の頃に比較して家庭学習の時間をより多くとらなければ、すべての教科で十分な学力を獲得することは難しく、小学生当時の生活リズムに比べて学習時間のより多い生活リズムへの変化が一般的に求められます。

そのような時期に、スマートフォンを手にした結果、スマートフォン利用が中心の生活リズムが形成され、「まずはゲームをやってから、勉強する」「SNSで仲間とやり取りしてから、就寝する」など、生活リズムが不安定

となる危険性があります。スマートフォンを中心とした生活リズムの場合、ゲームやSNSをどのタイミングで終了するのかは、まったく不安定であり、家庭学習を開始する時刻はもちろん、就寝時刻や食事時間すらスマートフォン使用の影響を受けることになりかねません。

子どもたちがスマートフォンをはじめて手にする時期と、スマートフォン依存との関連についても検討していきたいと思います。





幼児教育学科准教授 塩之谷 真弓 SHIONOYA Mayumi
前 職: 愛知県保健所健康支援課長(保健師)

感染症と 保育者養成

幼児教育学科准教授 塩之谷 真弓

新型コロナ感染拡大の中で 子どもの感染症と予防を学ぶ

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっています。筆者がこれまで勤務していた保健所では、休日夜間もシフトを組み、全職員体制で、感染対策に奔走しています。

この中で保育所では、子どもや家族を支えるために保育を提供し続けています。2021年8月現在、感染力の強いデルタ株が広がり、園児や保育士の感染は増加し、休園やクラス閉鎖も相次いでいます。

集団保育を行う保育所の感染症対策は重要なテーマです。2013年、沖縄県石垣島内の保育所等で、ロタウイルス182人発症という限定した集団感染性胃腸炎事例もありました。そして現在、全世界で新型コロナウイルス感染拡大への対応を迫られています。

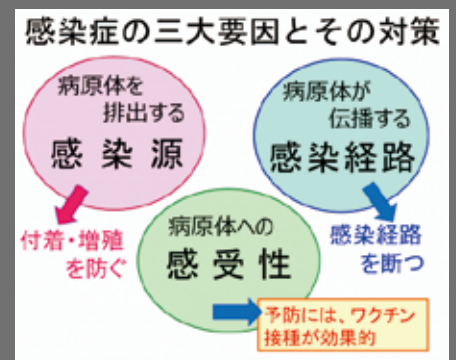
幼い子どもの保育は「三密」になりやすく集団感染のリスクが高まります。このため保育所では、感染対策への最大限の組織的な取り組みが求められており、子どもの健康と安全の授業等で学生達と学びを深めています。

感染症の三大要因とその対策

感染症発生の三大要因をまずは抑え、対策を整理します。

① 感染源対策: 感染源を除く

感染症を早期に診断・治療し、指定された期間、登園を控えてもらいます。体調不良時には職員も子どもも、出勤・登園をせず休むことが大切です。



② 感染経路対策:経路を断つ

保育所で特に注意すべき主な感染症の感染経路には、飛沫感染、空気感染、接触感染、経口感染等があります。

③ 感受性対策:予防接種等

子どもも職員も、定期接種に加え、任意接種についてもできる限り予防接種を受け、免疫を獲得することです。

感染対策のポイント

筆者は東日本大震災の2週間後に支援に入り、避難所で発熱や嘔吐・下痢患者の複数の発生を経験しました。こうした際も対策の基本は「標準予防策(スタンダード・プリコーション)」です。誰もが感染症を持っているかもしれないと考え、標準予防策を徹底します。

① 手指衛生(手指消毒、手洗い)

感染対策の基本です、保育の現場では、必要時、流水と石鹸による30秒以上の丁寧な手洗いが重要です。

●液体石鹸&詰め替え時の注意

固形石鹸では不潔になりやすいため、液体石鹸が推奨されます。ただし、液体石鹸の継ぎ足しは細菌繁殖のリスクを高めます。補充時は、空になった容器を洗って乾燥させてから補充を行います。

●洗った手の乾燥を!

濡れた手に菌が付着して移動するため、拭いて乾燥が大切です。タオルは共用せず、感染拡大時はペーパータオルの使用が推奨されます。

●アルコール消毒の注意点

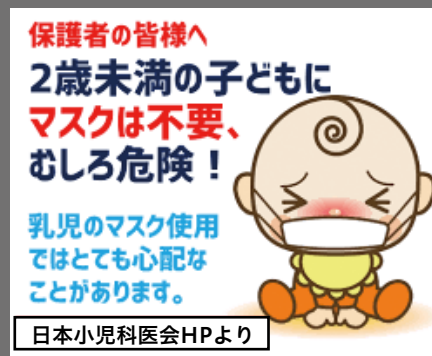
手が肉眼的に汚れていない場合、手洗いよりアルコール消毒は効果が高いとされています。アルコールによる手指消毒には15秒以上の丁寧な擦りこみが必要です。擦りこみに必要な微細運動が発達途中であり、手洗いの習慣を身につけつつある子どもは、石鹸と流水による手洗いの励行が大切です。

② マスクの着用

新型コロナウイルスは発症の2日前から他の人に感染させる可能性があります。マスクは鼻にフィットさせ、感染リスクの高い場面ではフィルター性能の高い不織布マスクを着用します。

●子どものマスク

2歳未満の子どもへのマスク着用は窒息、熱中症のリスクが高く禁止されています。



マスク着用の際は体調に注意し、発達年齢に応じてマスクの役割や正しい着用、咳エチケット等の基本的な飛沫感染対策を教えることも大切です(下図)。なおWHOは5歳以下の子どもへのマスク着用は必ずしも必要ないとしています。

③ 定期的な換気

換気は感染症対策に不可欠です。二方向の窓を開けての常時換気か、毎時2回以上の換気を行います。

【環境衛生のポイント】

環境表面の病原体は人が手指で触れ、目や鼻の粘膜を触って感染します。

感染源になりうる「手指の高頻度接触表面」を重点的に清掃・消毒すること、及び、手洗いが大切になります。ドアノブや電気のスイッチ、タブレット端末、子どもの机や椅子、おもちゃなどです。

●消毒時スプレーをしない

汚染された場所や環境を消毒する際、スプレータイプで消毒液を散布しないことが重要です。ウイルスを舞い上げ、消毒が不十分になり、皮膚や目への健康障害の恐れがあり、推奨されていません。

感染対策授業とレポート

感染対策の授業では、演習を含めて学び、子どもへの伝え方などのグループワークを行います。学生達のレポートでは、「子どもが手洗いに楽しく取り組み、習慣化できるように、歌を取り入れるなど工夫していきたい」、「嘔吐物の処理は、嘔吐した子どもへの配慮と、その他の子どもたちを感染から守ること、そして職員も感染しないようにすることが大切だと思った」、「新型コロナウイルスへの子どもたちの不安を取り除いてあげながら、感染予防の大切さを教えることが保育者の役割であると考えられる」などがありました。

集団保育の現場で感染対策を実践できる保育者養成を、これからも模索し続けていきたいと考えています。

新型コロナウイルス げき退作戦 ~わたしたちができること~



「佐久医師会 教えて!ドクタープロジェクト・佐久市・佐久市教育委員会2020年4月発行」より抜粋

障害のある学生が大学で安心して学ぶために

現代教育学科准教授 立田 祐子 TATSUTA Yuko



私の専門は「特別支援教育」です。2021年4月に中部大学に赴任しました。その前は、北海道の大学で障害のある学生の支援をしていました。今回は、私の経験から障害のある学生の支援に必要なだと「思う」ことをコンパクトにまとめてみました。

一般的に、大学での学修は、小学校・中学校・高等学校（以下、「高校」という。）までの授業とは大きく異なっています。

大半の学生が学んできた高校ではホームルーム担任があり、朝と下校前には必ずその日や次の日の重要な連絡事項を伝えてくれます。また、時間割が最初から決められており、自分で履修の計画を立てることや授業場所の大きな移動もなく、クラスの仲間との行動がほとんどです。

一方、大学に入学すると、履修の計画を自ら立て、授業によっては、毎回レポートの提出を求められたり、協議の時間も多くなったりするなど、高校までの間に学んだ知識、技能などを活用しながら、学生が主体となり自ら学びをつくっていくことが求められます。

しかし、特に発達障害のある学生は、その特性から、今までのやり方をうまく応用して大学での学び方に適応することができずに挫折してしまい、大学生活全般になじめなかったり、二次的な障害が出てしまったりすることもあるといわれています。

独立行政法人日本学生機構から2019年3月に出された「平成30年度（2018年度）大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書」によると、障害学生の数は年々上昇の傾向にあり、中でも「病弱・虚弱」、「精神障害」、「発達障害」が増加の傾向にあると報告されています。「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（いわゆる「障害者差別解消法」）施行以降、多くの大学で障害のある学生を支援する部署が設置され、大学として障

害のある学生を支援する動きになってきています。

高校までは、学校生活などで困ったことがあれば、ホームルーム担当の先生や特別支援教育コーディネーター、養護教諭などを中心に対応してくれていたと思います。しかし、大学では、「してほしい配慮や支援」について自らが申し出ない限りは配慮や支援がスタートしない場合がほとんどです。大学生活は学生にとって自由度が高いというメリットがありますが、その反面、主体性や自律度の高い生活や学修が求められます。高校までとは違い、より高次のレベルの自己決定が求められてきます。今後、大学に入学する学生が、自らの「困りごと」や「支援や配慮の内容」等について自らの言葉で説明することができるように、小・中、高校の中で、障害のあるなしにかかわらず、児童生徒が自己理解（自分の障害や得意なこと苦手なことを含めた）を図ることができる指導の充実に期待をしたいと思います。

また、大学では、学生が「つまずく」と思われる内容や、学生が困ったときに「どこに」相談に行けばよいかなど、大学でのシステムについて高校にも知ってもらい「しくみ」を作り上げていくことが必要です。その際には、一部の部署だけが考えるのではなく大学全体で障害のある学生を「どのように支援していくか」を考えていくことが重要です。

最後に、大学で障害学生支援を行う部署の担当者は、小・中、高校でのカリキュラムや特別支援教育が果たしている（いく）役割について日々学び、学生への切れ目のない支援を現実的にしていくことが求められると思います。そのためには、小・中、高校、大学が組織を超えて、それぞれの知見を共有し融合を図っていくことが、これからの「社会を創っていく」であろう学生を支援していく上で重要なことであると考えています。



ワンキャンパスの総合大学の利点を生かした他学部との連携

～FD&SD講演会で工学部の先生方の研究内容を聞いて～

現代教育学科教授 神保 雅一 JIMBO Masakazu



近年、小学校にプログラミング教育、外国語教育の導入が始まっており、教育現場の先生にもそれらの新しい教育に対する対応が求められています。幸い、中部大学は理系から文系まで7つの学部がワンキャンパスに結集した総合大学です。この特徴を生かして、他学部との共同研究を行い、互いの知見やノウハウを生かして、新しい教育に対応できる小中学校教員を育成することは、現代教育学部のみならず中部大学全体の強みになると思われます。

現代教育学部では、2020年秋に工学部の情報工学科と都市建設工学科の先生方をお呼びして、FD&SD講演会で工学的な視点から教育にかかわるテーマについてお話を伺う機会を設けました。

情報工学科の先生方のお話

情報工学科の奥居哲先生は、「プログラミングを行う際に、問題をより易しい部分問題に分割し、その結果を統合して全体を分割統治するような論理思考を小学生のプログラミング教育の段階から身に着ける訓練ができれば…」とおっしゃっています。奥居先生はその上で、図のようなスプライトと呼ばれるコマを盤面上に並べて論理思考の流れを再帰的に整理するプログラムの方法を提示して下さいました。例えば、筆算の掛け算は桁ごとに同じ計算を行い(これが分割)、それらを足し合わせて(統合)計算結果が得られますが、この過程をスプライトで表現することもできるでしょう。



鈴木裕利先生は、下図のように指導者や受講者の行動を時刻ごとにコード化することによる学習・協調活動の分析手法を提案され、効果的なグループ学習システムの提案・構築およびその評価についてお話をされました。

時間	指導者							受講者			
	説明	指導	聞き取り やすい声 で発言者	聞き取り やすい声 にくい声	表情豊	ジェス チャー豊	質問者	回答者	質問-回答	回答-質問	
0:00											
0:05											
0:10											
0:15											
0:20											
0:25											
0:30											
0:35											
0:40											
0:45											
0:50											
0:55											
1:00											

石井成郎先生(一宮研伸大学)は、認知科学の立場から、KiSS-18と呼ばれる社会的スキルを測るアンケートを用いてペアでプログラミングの学習を行った際に、学習効果を上げるために個々の社会的スキルの高低に応じてどのようにペアを組むのが効果的かアンケート結果をもとに示して下さいました。

都市建設工学科の先生方のお話

服部敦先生と岡本肇先生は、春日井市およびURと共同で小中学校の空き教室を活用する実例を紹介されました。小中学校の空き教室の活用は高蔵寺に限らず、日本全体の問題です。

磯部友彦先生は、犬山市などのコミュニティ交通の有効性分析、および歩行路面の滑りなどについての障害者団体との連携研究の成果を紹介して下さいました。教育分野でも保育所や特別支援学校の設置の際の地域の交通課題分析など現代教育学部と連携できそうなテーマがありそうです。

武田誠先生は、都市河川の水環境を研究しておられますが、神領小学校のハザードマップを作成され、夏休みに小中学校などの教員を対象に防災教育を行っておられます。教員にとって、地域の防災について把握し、連携研究を行っておくことは非常に重要だと思います。

2020年度は、工学部との連携について、いくつかの可能性を見出すことができましたが、今後、外国語教育、障害者のための特別支援教育など中部大学内外の他組織の知見を活かした共同研究を行って直面する現代の課題に対応することは現代教育学部の持続的発展に繋がっていくことでしょう。

コロナ禍の保育・教育実習～現場でなくっちゃ！～

教育実習センター特任講師 多治見 里美 TAJIMI Satomi

前職：2010.4～2016.3月 子育て子育て総合支援館館長
2014.4～2019.3月 春日井市立保育園園長

1. 保育現場の混乱

2020年度、新型コロナウイルスの流行で日常が大きく変化中、学生たちの実習にも影響が出ました。予定されていた実習が中止になったり、県外の学生は愛知から行くというだけで断られたり、いままでには考えられないようなことが次々と起こりました。その中で学生たちは「WITHコロナの保育」に向き合うこととなりました。

「マスク・手洗い・消毒・検温」など、大人の対策は徹底できても子どもたちのいる保育現場ではどうしても「3密」を避けることができません。それは、乳幼児の育ちが「あそび」で支えられている面が強く、保育現場で子どもが人として育つには、人とのコミュニケーションが不可欠となるからです。また、保育所は福祉施設であり、働く親やひとり親家庭などの子どもの居場所であり、保育の提供をやめることはできないという現状からコロナ禍の中でも開園を続ける保育所の苦悩を学生たちは実感することとなりました。保育現場もこの今まで経験した



こともないような現状の中で子どもたちの命をどう守るのかということに奔走して、とても実習に来る学生のことまでは考えられないという事態になってしまいました。

私も長い間、保育者として保育現場で働いてきましたが、こんなことが起きるなんて想像もしませんでした。前例のない事態にどうすればいいのか、保育現場の苦悩はいかばかりかと察します。

2. 問題点

学生たちの実習は園児たちが誰とどのように遊んだかなどを記録することで、子どもたちの性格を把握し、振る舞いから体調や心の状態を読み取る能力の土台を養うねらいがあります。厚労省の「新型コロナウイルス感染症の発生にともなう指定保育士養成施設等の対応について」には、実情を踏まえ実習に代えて演習又は学内実習等を実施することにより、必要な知識及び技能を習得することとして差し支えないこと、とありますが、これでは直に子どもと接した実習の学びに変わるものではないと痛感しました。

3. 本学の対応

幼児教育学科では実習時期をずらし、先方の意向に合わせつつ実習を依頼することにしました。そのため実習の指導内容にも、いつもとは違う指導が必要となりました。

この指導の中で学生は「子どもの命」に関わる保育実習に参加するということをしっかり認識できるきっかけを得たと思います。学生には同学年の中でも実習期間が異なったりという問題も起きましたが、幼児教育学科の教員、そして何よりも教職支援センター職員の何とか実習に行かせたいという強い思いがあり、先生方には授業の調整など快く対応していただき、全員が実習を体験することができました。

そしてこの体験を通して学生たちは、子どもにも保護者にも、そして社会にも必要とされている仕事であるということが実感できたと思います。緊張感のある中で子どもたちの命を預かる仕事であることを自覚し、今後も楽しく保育の道を進んでいって欲しいと願っています。

韓国の三育大学校[※]の「森の生態教育」について

幼児教育学科准教授 蘇 珍伊 SO Jinyi

韓国の合計特殊出生率は、世界で最も低く、2020年には0.84まで低下し、深刻な少子化問題を抱えています。韓国政府は、少子化に歯止めをかけるために、乳幼児の保育・教育政策に力を注いでおり、その担い手である保育者養成にもますます期待が高まっています。そこで、本稿では、保育者養成教育の模範事例として「森の生態教育(Eco-early childhood Education)」を実施している三育大学校の取り組みを紹介します。

まず、韓国の保育者養成について簡単に説明します。韓国の保育・幼児教育制度は、日本に似ていますが、相違点もたくさんあります。保育施設には、オリニジップ(日本の保育所に当たる保育施設、子どもの家という意味)と幼稚園があり、そこで働く保育者を保育教師(日本の保育士に当たる)と幼稚園教師(日本の幼稚園教諭に当たる)といいます。保育者の資格システムは、日本と同じく二元化され、保育教師は、1級・2級・3級、幼稚園教師は、正教師1級・正教師2級・準教師の資格体系となっていますが、保育教師が等級制であることが日本と大きく違います。代表的な養成機関は、大学の幼児教育学科で、3年制と4年制があり、2年制はありません。また、取得可能な資格は、3年制も4年制も「保育教師2級」と「幼稚園正教師2級」で同じであり、取得学位が「専門学士」か「学士」かに違いがあります。

幼児教育学科の教育課程は、「専攻



科目」「教職科目(教職理論・教科素養・教育実習)」と構成されていますが、三育大学校では、これらの基本教育の他、保育者の専門性と力量開発のための「特性化プログラム」に取り組んでいます。三育大学校は、ソウル市内にある私立大学であり、キャンパス内に生態保存地として指定された10万坪の森林を構えており、この立地条件を生かして、2011年から「森の教師養成プログラム」という特化事業を運営しています。また、三育大学校の敷地内には、「森と自然の中で、かしこくやさしくたくましく育つ子ども」を教育目標とする附属幼稚園があり、幼児・遊び中心の教育課程を森で実現しています。このような教育環境のもとで「森の生態教育」が行われています。「森の生態教育」は、最近、幼児教育の新しいトレンドである森の幼稚園の理論と実際を学ぶ科目です。この授業では、人と自然を愛し尊重する子ども、健康で幸せな子どもを育てる使命感と能力を備えた森の教師を養成することを狙いとしており、学びのポイントを以下に紹介します。

- ・森の幼稚園の歴史と哲学について理解する。
- ・東・西洋、韓国の生命尊重思想を土台とした森の生態教育の体系を理解する。
- ・春夏秋冬の変化と毎月森で観察できる生物及び微生物を理解し、森での遊びを指導できる能力を養う。
- ・実際、森の幼稚園を参観し、幼児の日課と遊びを観察し、森での健康と安全指導について学ぶ。

なお、「森の生態教育」は、在学生だけではなく、現職保育者を対象とする教育プログラムも実施されており、このような取り組みは、「森の生態教育」の優れた事例として高く評価されています。

保育者養成教育に「森の生態教育」を取り入れた三育大学校の取り組みが、日本においても大いに参考になれば幸いです。

※韓国では4年制総合大学を「大学校」、2年制・3年生短期大学を「大学」と言います。本稿は、韓国の三育大学校のホームページ(www.syu.ac.kr)を参考に作成しました。



大学での経験を活かして

浜松市職員(幼稚園教諭) 尾奈幼稚園 小山 隼平
(幼児教育学科 2021年3月卒業)

静岡県出身

私は子どもと関わる仕事がしたいという思いから幼児教育学科に入学しました。入学前は、『保育は子どもと一緒に遊ぶ仕事』という漠然としたイメージしか持っていませんでした。しかし、講義や実習を重ねていく中で、学びの意義や環境の重要性、保育者としての援助技術などを習得することにより、保育についてより深く学ぶことができました。



目指していた幼稚園教諭となり、元気いっぱいの子どもたちと関わることを楽しみながら仕事をしています。同時に担任として保護者から大切な子どもを預かる責任感や保育をすることの難しさも感じています。保育が思い通りにいかない日もありますが、日々反省と改善を繰り返して、より良い保育をするために子どもの姿を予測して準備をしたり、子どもに適した援助は何かということを考えたりしています。その中で、子どもが「先生！先生！」と笑顔で話しかけてくれることや子どもの成長を感じられることがとても嬉しく、この仕事のやりがいを感じられる瞬間でもあります。

在学中は部活でマネージャー・コーチ業に打ち込んでおり、周りの同級生よりも就活に費やす時間が制限されていたと思います。そのため、苦手科目を重点的に勉強したり、講義でわからなかったところはすぐに復習したりして勉強の効率化を図りました。両立は難しかったですが、部活を4年生の引退まで続けることができた達成感は大きく、部活で学んだことは今の仕事でも活かされています。そして何よりも部活で出会った仲間や経験は自分の財産となりました。

大学での学びは保育者となるための土台となる貴重なものです。頑張った分だけ自分の力となり、その頑張りは間違いなく子どものためになります。また、4年間の学生生活では勉強だけでなく、いろいろなものにチャレンジして、自分の好きなものや得意なことを見つけてください。その経験は自分の自信になり自分自身を成長させてくれると思います。

継続は力になる！

名古屋市職員(保育士) よもぎ園 増子 沙也加
(幼児教育学科 2019年3月卒業)

福島県出身

私が保育園の先生になって3年目の今、なかなかうまくいかないことや、失敗したことを糧にして、保育の奥深さを感じる日々を過ごしています。しかし、毎日いろんな成長を見せてくれる子どもたちと一緒に過ごす中で、「子どもって本当におもしろい！」と感じたり、子どもから元気をもらうこともたくさんありました。



学生時代からピアノが本当に苦手で、就職してからも朝の会の歌や、リズム遊びには苦戦していました。家に帰ってからも、鍵盤と楽譜とにらめっこしていました。毎日繰り返す中で、少しずつ弾けるようになってきたかも？と感じていた頃、朝の歌を歌い終わってから一人の園児が近づいてきて小さい声で私に言いました。「ねえねえ、せんせい、なんかピアノじょうずになったね！」まさか子どもから褒められると思っていなかったのが本当に嬉しくて、その日のことは忘れられません！子どもたちって本当に素直で、いろんなことをよく見て・聴いているんだと改めて実感しました。

もちろん、嬉しいことばかりではなく、壁にぶつかったり、うまくいかなかったりすることもあります。しかし、日々の中で子どもたちと気持ちが通じ合った！と感じる瞬間は、保育者になって良かったなと感慨深いものがあります。そんな瞬間や、子どものこれからの成長のために、今自分にできることは何なのかを考えて、保育者としての最善を尽くしていくよう、日々努力していきたいと思っています。これから子どもたちとたくさん遊んで、話して、もっといろいろなおもしろい発見ができることが楽しみです！

今、苦手なことがあったり、自分に自信がない人でもきっと大丈夫です。毎日の努力の積み重ねが実を結ぶときが必ず来ます。目標や夢に向かって、貴重な学生生活の1日1日を大切にしてくださいね。



国語って面白い

岐阜県瑞穂市立南小学校 成瀬 万理子
(現代教育学科 ※旧児童教育学科 2014年3月卒業)

岐阜県出身

なぜ国語を学ぶのか。中学校で国語の授業を始める際に、必ず生徒に話をします。私が3年間勤務した中学校は、各学年7、8クラスあり、国語科の教員も5名いました。国語の授業のスタートに何を熱く語るのか、自分ならこう話す、というのを各々が説明します。スティーブ・ジョブズの話をする先生、自分の好きな本を紹介する先生、国語を制する者は全教科を制すると語る先生……面白い。私は、国語を学ぶことで、作者や筆者のメッセージや問題の意図、さらには日常で相手の気持ちを読み取る力がつくと考えています。「机を激しくドンドンたたいて教室を飛び出す」、表情は書いていなくても怒っているのかな、と感じます。このように、国語の力は日常生活に役立っています。さらに、伝えたいメッセージを読み取るための伏線が面白い。様々な本や漫画、教科書の中の話にも、たくさんの伏線が使われています。授業を考えるときに、教員同士で伏線とのつながりについて考えたり、本や漫画を読むときに伏線を考えながら読んだり……、国語って面白い。

また、授業公開の時には、5人で何度も授業案を練り、たくさんの進め方を検討し、授業を見せ合い、学び合いました。その1時間の授業で生徒に伝えたいことは同じでも、そこにたどりつく過程は様々で十人十色です。5人で考え導いたものも、授業後に話を聞くと、こんなやり方もあったのかと痛感し、とても勉強になります。やっぱり国語は面白い。

私は、これからも学び続け、国語の面白さを伝えていきたいと思います。国語が苦手だった私が、多くの国語科の先生方と出会い、言葉や文章の面白さに触れて、“国語って面白い”と思えたように、国語が“嫌いだな”“苦手だな”と思う児童生徒が一人でも減ることを願って。



教員という仕事

愛知県春日井市立出川小学校 及川 悠太
(現代教育学科 ※旧児童教育学科 2015年3月卒業)

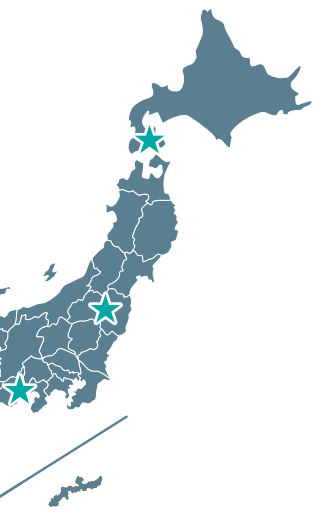
北海道出身

私の出身地は、五稜郭で有名な北海道函館市……の横にある北斗市という、北寄貝がちょっとだけ有名な田舎町です。そんな田舎町で育った私が、中部大学に進学したのは、「新しめの学部だから、きれいな校舎で勉強できそう。」「名古屋まで30分だし、きっと大都会だろう。」という、しょうもない理由でした。実際に来てみると、正直、大都会ではありませんでしたが、町もあり、山もありの生活のしやすいちょうどよい町でした。

私は現在、中部大学の麓にある出川小学校で3年生の担任をしています。ちょうどよい町に何かの縁を感じ、地元には帰らずここで働くことにしました。本校では以前から、「学習規律の徹底」と「ICTの有効活用」によるわかりやすい授業の実現(かすがいスタンダード)を目指して実践研究に取り組んできました。また、昨年度から前倒しで始まったGIGAスクール構想によるPC活用にも積極的に取り組んでいます。働き出した当時は、こんなことも教えなければいけないのかと驚き、同時に恐怖心がありました。しかし今では、これらに取り組むことが普通。むしろ、やらなければ授業ができないとまで感じています。

このように、どんどんと新しいことが入ってくる教員という仕事は、非常に多忙で、大変です。勤務時間外に仕事をしていることもよくあります。ただ、それでもこの仕事を続けていられるのは、「子ども達に成長してほしい」という強い思いがあるからです。学習規律も、ICT活用も、GIGAスクール構想も、全ては子ども達の学びのためです。どうすれば学力がつくか、どうすれば人として成長できるかを常に考え、そのための支援、指導をいつも模索し、先生方と協力しながら取り組んでいます。

子ども達の成長を感じられたときは、とても嬉しく、やりがいを感じます。これからも「子どもたちのため」を常に考え、より良い教員となれるよう努力していこうと思います。



副学部長からのメッセージ



現代教育学部 副学部長
長尾 寛子
NAGAO Hiroko

今大学をはじめとして、日本の教育全体が新型コロナウイルス感染症の影響を受け、学生や教職員ともにその対応に追われています。それは私たちだけでなく、世界全体が直面する現実で、その克服のために人々は毎日努力し続けています。現代教育学部もこれを正面から受け止めて、感染症の正しい知識を得て命と健康を守ることを第一にしながら、他学部との連携や実習を含む授業の工夫などに心を砕き、未来につないでいこうとしています。

～表紙の作品について～



幼児教育学科教授
采峯 真澄
WAKEBIKI Masumi

シュレディンガーの船

(ブロンズ 第2回佐野ルネッサンス鑄金展出品)

数年前、「シュレディンガーの猫」という本を読んだ。物理、それも量子力学という、私にとっては無縁の領域の本で、話の半分も理解できなかった。ただ、ミクロとマクロの世界の違いを書いたその内容に、自分の視野の狭さを思い知らされた。目の前の当たり前が、実は確定されていないものかもしれない。この作品はそんな世界を旅する船をコンセプトに作成した。

～就職実績～

幼児教育学科

2011年度～2020年度の過去10年間で

公務員・保育職(正規) **146名**

幼稚園教員(正規) **154名**

幼稚園教諭・保育士などの資格、就職や大学院など卒業後の進路までカバーする「※トリプルサポート体制」。

※幼児教育学科教員・キャリア支援課・外部講師

現代教育学部

2011年度～2020年度の過去10年間で

小学校教員(正規) **155名**

中学校教員(正規) **7名**

特別支援学校教員(正規) **27名**

(臨時教員 259名)

教職経験豊かな教育実習センター専任教員による個人面接指導など、教員採用試験対策が充実。

【現代教育学部 教育の理念】

乳幼児、児童生徒に対して温かいまなざしと愛情に裏打ちされた専門的な知識と技能を修得し、かつ自らの生きがいとして、継続的に自己の成長を追求する言行一致の教育者を養成します。

編集・発行

中部大学現代教育学部 広報委員会

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200

TEL 0568-51-4690 FAX 0568-51-4699

E-mail educa@office.chubu.ac.jp